

Salesforce データローダー導入・操作マニュアル

データローダーとは？（標準インポート機能との違いとメリット）

1. データローダーとは

Salesforce データローダーは、大量のレコード（取引先、取引先責任者、カスタムオブジェクトなど）を一括でインポート（登録・更新）、エクスポート（抽出）、または削除するための Salesforce 公式クライアントアプリケーションです。PC にインストールしてデスクトップアプリとして単体で動作します。

2. 標準の「インポートウィザード」との違い

Salesforce の画面上（設定メニューなど）から利用できる「インポートウィザード」と、データローダーの主な違いは以下の通りです。

比較項目	標準のインポート機能 (ウィザード)	データローダー
処理できる データ件数	最大 5 万件 まで	数百万件などの大規模データに対応
対象	取引先、取引先責任者、リード、 キャンペーンメンバー、カスタム オブジェクトなど一部制限あり	ほぼすべての標準・カスタム オブジェクトに対応
操作方法	ブラウザ上のウィザードに沿って 進める（初心者向け）	アプリを起動し、CSV ファイルと 項目マッピングを行って実行する
自動化・ バッチ処理	手動のみ (ウィザードの操作が必要)	コマンドライン等を使った 定期実行や自動化が可能

3. データローダーを導入するメリット

- 大量データの効率的な一括処理
定期的な大量データのメンテナンスや、他システムからの大規模なデータ移行を短時間でスムーズに行うことができます。
- 標準インポートでは扱えないオブジェクトの操作
ウィザード非対応のオブジェクトや複雑な関連データも、データローダーであれば直接操作が可能です。
- データのバックアップと抽出（Export）が強力
SOQL クエリを使用して、必要な条件に絞ったデータを素早く CSV に書き出すことができるため、データの点検やバックアップにも非常に重宝します。

事前準備（Java のインストール）

データローダーの実行には、Zulu OpenJDK (Java 11 以降) などのランタイム環境が必要です。
未導入の場合は事前にインストールしておきます。

1. ダウンロード手順

- Azul 社の公式ダウンロードページ [Azul Downloads](#) にアクセスします。
- ページ下部のセクター（または一覧）で、用途に合わせた以下の条件を選択します。
Java Version: 使用するバージョン（例: 長期サポートの Java 11, Java 17, Java 21 など）
Operating System: 利用する OS（例: Windows, macOS, Linux 等）
Architecture: アーキテクチャ（例: x86 64-bit 等）
Package Type: パッケージの種類（一般的には JDK を選択）
- 一覧から該当するインストーラー（Windows の場合は .msi ファイル）または ZIP ファイル をダウンロードします。

2. インストール手順（Windows の MSI インストーラー利用時）

- ダウンロードした .msi ファイルをダブルクリックしてセットアップウィザードを起動します。
- 画面に従って [Next] をクリックします。
- インストール先フォルダの指定や、環境変数（ JAVA_HOME や PATH ）への自動追加を設定する画面が表示されるため、必要に応じて選択してインストールを進めます（※環境変数を自動設定しておくとも手動設定の手間が省けます）。
- 最後に [Finish] をクリックしてインストールを完了させます。

3. インストールの確認方法

- コマンドプロンプト（またはターミナル）を新規に開きます。
- 次のコマンドを入力して実行します。

```
java -version
```

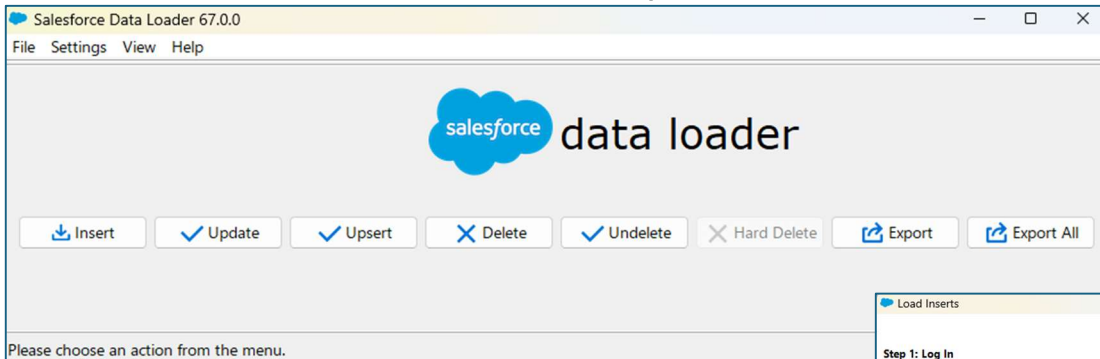
- インストールした Zulu OpenJDK のバージョン情報（例: openjdk version "21.0.x" や Zulu... の表示）が返されれば正常に完了です。

ダウンロードとインストール手順

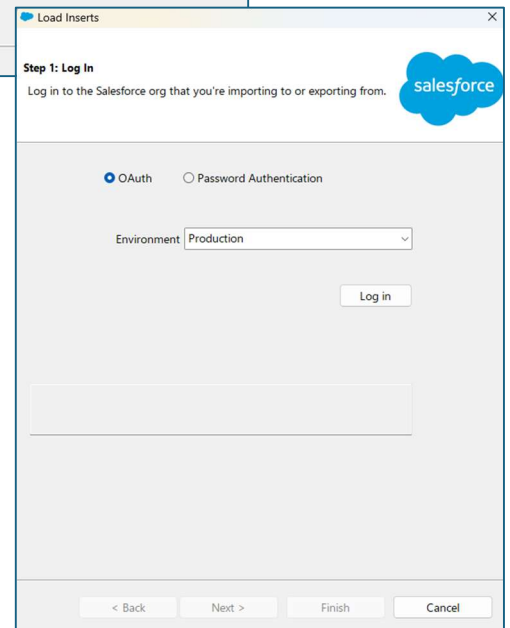
1. Salesforce 画面右上の歯車アイコン（[設定]）をクリックします。
2. クイック検索ボックスに「データローダー」と入力し、表示された[データローダー]を選択します。
3. ページ下部にある[データローダーのダウンロード]リンクをクリックし、インストーラー（Windows 版など）をダウンロードします。
4. ダウンロードした ZIP ファイルを解凍し、中のインストーラー（install.bat 等、または EXE ファイル）を実行します。
5. 画面の指示に従い、インストール先を指定してインストールを完了させます（デスクトップにショートカットを作成すると便利です）。

接続設定とログイン手順

1. データローダーを起動し、操作メニュー（Insert, Update 等）のいずれかをクリックします。



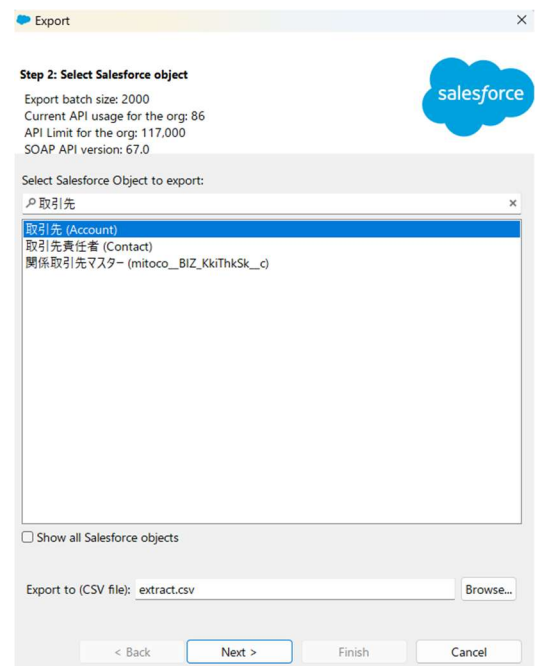
2. ログイン画面が表示されたら、環境（通常は Production または Sandbox）を選択します。
3. 「OAuth」を選択、Environment は「Production」を選択し、「Log in」ボタンをクリックします。
Production：本番環境
Sandbox：テスト環境
4. ブラウザが起動して Salesforce のログイン画面またはアクセス許可画面が出るため、アカウント情報を入力し「許可」をクリックします。
5. データローダーに戻り「ログインに成功しました」と表示されたら、[次へ]をクリックして完了です。



基本的な使用方法（エクスポート・インポート）

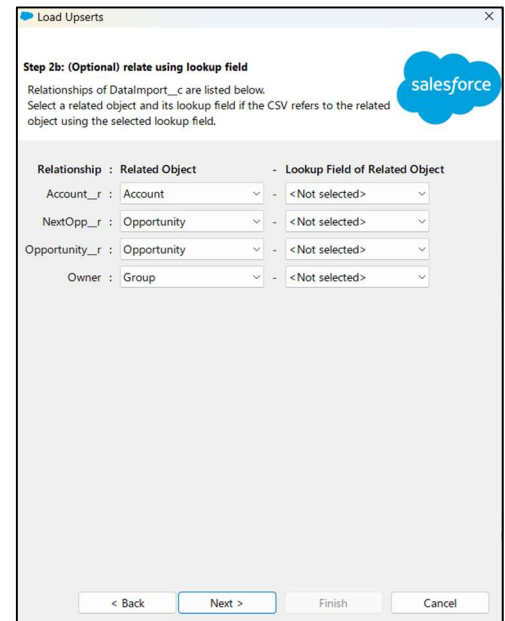
- エクスポート（データ抽出）の手順

1. [Export] ボタンをクリックします。
2. ログインアカウントで接続後、抽出したいオブジェクト（例: 取引先・Contact 等）を選択します。
3. 出力先の CSV ファイル名を指定し、[Next] をクリックします。
4. SOQL クエリ（項目と条件）を構築し、[Finish] を押すとデータが CSV に出力されます。



インポート（登録・更新）の手順

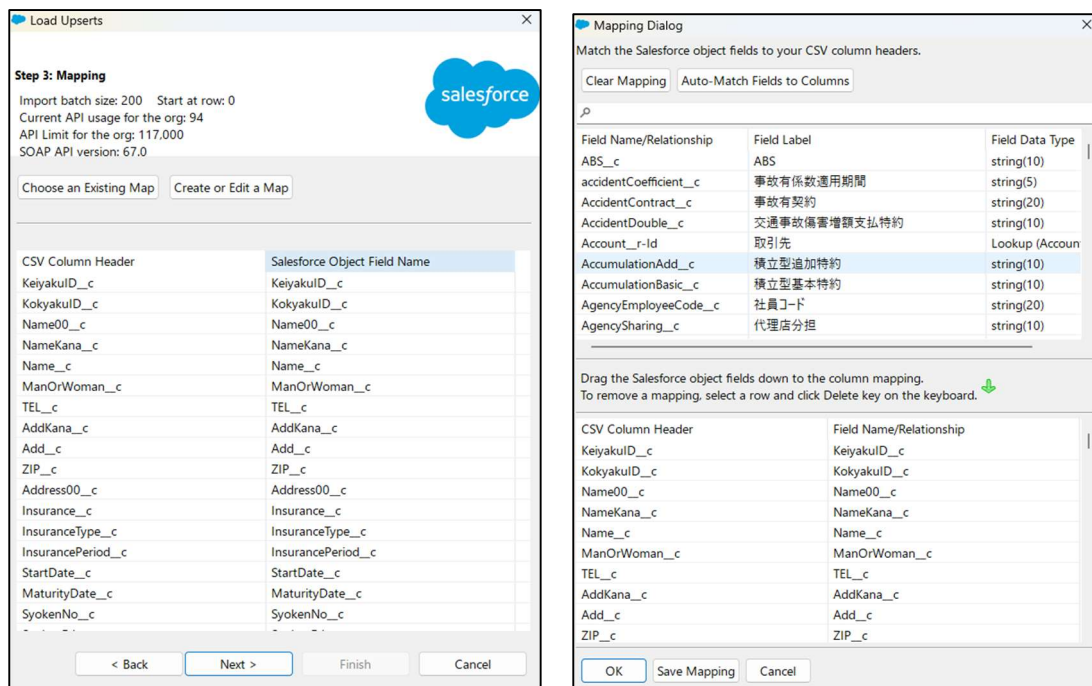
1. [Insert]（新規）や [Update]（更新）を選択
2. 対象オブジェクトを選択し、マッピングする CSV ファイルを選択します。
3. 関連する別オブジェクト（親レコードなど）の設定を行います。
 - ※ 別オブジェクトの ID を、項目の値をキーにして自動的に検索・紐付けて登録するためのオプション画面です。
 - ※ 既に Salesforce ID を csv に直接用紙している場合や、関連オブジェクトを紐づける必要がない場合は、この画面で設定を行う必要はありません。
4. [Create or Edit a Map] をクリックして、Salesforce の項目と CSV の列を紐付けます。



Step 2b: (Optional) relate using lookup field
Relationships of DataImport__c are listed below. Select a related object and its lookup field if the CSV refers to the related object using the selected lookup field.

Relationship	Related Object	Lookup Field of Related Object
Account__r	Account	<Not selected>
NextOpp__r	Opportunity	<Not selected>
Opportunity__r	Opportunity	<Not selected>
Owner	Group	<Not selected>

< Back Next > Finish Cancel



Step 3: Mapping
Import batch size: 200 Start at row: 0
Current API usage for the org: 94
API Limit for the org: 117,000
SOAP API version: 67.0

Choose an Existing Map Create or Edit a Map

CSV Column Header	Salesforce Object Field Name
KeiyakuID__c	KeiyakuID__c
KokyakuID__c	KokyakuID__c
Name00__c	Name00__c
NameKana__c	NameKana__c
Name__c	Name__c
ManOrWoman__c	ManOrWoman__c
TEL__c	TEL__c
AddKana__c	AddKana__c
Add__c	Add__c
ZIP__c	ZIP__c
Address00__c	Address00__c
Insurance__c	Insurance__c
InsuranceType__c	InsuranceType__c
InsurancePeriod__c	InsurancePeriod__c
StartDate__c	StartDate__c
MaturityDate__c	MaturityDate__c
SyokenNo__c	SyokenNo__c

< Back Next > Finish Cancel

Mapping Dialog
Match the Salesforce object fields to your CSV column headers.

Clear Mapping Auto-Match Fields to Columns

Field Name/Relationship	Field Label	Field Data Type
ABS__c	ABS	string(10)
accidentCoefficient__c	事故有係数適用期間	string(5)
AccidentContract__c	事故有契約	string(20)
AccidentDouble__c	交通事故傷害増額支払特約	string(10)
Account__r-Id	取引先	Lookup (Account)
AccumulationAdd__c	積立型追加特約	string(10)
AccumulationBasic__c	積立型基本特約	string(10)
AgencyEmployeeCode__c	社員コード	string(20)
AgencySharing__c	代理店分担	string(10)

Drag the Salesforce object fields down to the column mapping.
To remove a mapping, select a row and click Delete key on the keyboard.

CSV Column Header	Field Name/Relationship
KeiyakuID__c	KeiyakuID__c
KokyakuID__c	KokyakuID__c
Name00__c	Name00__c
NameKana__c	NameKana__c
Name__c	Name__c
ManOrWoman__c	ManOrWoman__c
TEL__c	TEL__c
AddKana__c	AddKana__c
Add__c	Add__c
ZIP__c	ZIP__c

OK Save Mapping Cancel

5. 出力ログの保存先を指定し、[Finish] を押すとデータ処理が実行されます。

運用の注意点

- バックアップの徹底: 大規模な更新・削除を行う前には、必ず事前に[Export]で対象データのバックアップを取得してください。
- API 制限: 組織ごとの 1 日の API コール制限に注意して実行してください。

Salesforce データローダーについてのより詳細な仕様や最新のアップデート情報については、以下の公式ドキュメントもあわせてご参照ください。

[Salesforce Developer Documentation - データローダーについて](#)